

3 (日)

復活のからだ

コリントの信徒への手紙Ⅰ一五章 35～49節

死者はどのように復活するのか、どのような体で来るのか、と聞く者がいるかもしれません。愚かな人だ。あなたが蒔くものは、死ななければ命を与えられることはありません。(35、36)

コリント教会には、死んだ人が再び体をもって復活することなど全く愚かなこととして信じられない人たちがいました。彼らは「死者はどのように復活するか、どのような体で来るのか」との問いを発していました。これに対してパウロは、彼らこそ「愚かな人だ」と叱責します。彼らは、「人の生命はこの世限りだ」という地点から復活を考えるため、復活がどうしても説明出来ないのです。パウロの発想は出発点が違います。一粒の種は地に埋められ、自らが腐って死んでいくことにより、新しい命が生まれます。人も死ぬことによって、新しい復活の命が与えられるのです。この真理を、私たちの初穂となられた主イエスの復活の事実を根拠として信じるのです。私たちの復活の希望は、キリストの復活を信じるところから生まれます。キリストの復活こそ、私たちの信仰の原点なのです。